

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
社会福祉援助技術演習 I	北村 香織	演習	4	社会福祉士 (SS)	1, 2, 3	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	本演習の第1の目的は、ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力を体得することである。そして、ソーシャルワーク支援に関する講義で学んだ知識、価値規範、技術を実践的に理解することを目指す。第2の目的は、ソーシャルワークの知識と技術を統合して専門的援助技術として体系立てられる能力を習得することである。全30回を通して、具体的な支援の場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式で行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力を体得する。 2 ソーシャルワーク理論を実践的に理解する。 3 社会福祉士としての倫理的な判断能力を養い、実践的な対応能力を体得する。 						
回	学習内容	回	学習内容				
1	社会福祉援助とは？	16	グループダイナミクスの活用 (グループワーク)				
2	支援者としての自分とは？ (自己覚知)	17	記録の種類と方法の理解				
3	他者への理解 (自己覚知2)	18	個人情報保護と記録管理				
4	福祉専門職としての価値観	19	包括的な支援方法 (事例：虐待)				
5	コミュニケーションの方法 (非言語)	20	ロールプレイングによる虐待事例の検討				
6	コミュニケーションの方法 (言語)	21	包括的な支援方法 (事例：ひきこもり、貧困)				
7	面接における基本的応答技法	22	ロールプレイングによるひきこもり事例の検討				
8	面接における基本的応答技法の応用	23	包括的な支援方法 (事例：認知症)				
9	ソーシャルワークの過程 (インテーク面接)	24	ロールプレイングによる認知症事例の検討				
10	ソーシャルワークの過程 (アセスメントの方法)	25	包括的な支援方法 (事例：終末期ケア、災害等)				
11	ソーシャルワークの過程 (支援計画の作成)	26	ロールプレイングによる終末期ケア事例の検討				
12	ソーシャルワークの過程 (モニタリング)	27	包括的な支援方法 (事例：権利擁護活動)				
13	ソーシャルワークの過程 (支援の終結)	28	ロールプレイングによる権利擁護活動の検討				
14	ソーシャルワークの過程 (事後評価)	29	ケースカンファレンスの理解				
15	プレゼンテーション技術 (個人)	30	スーパービジョンの理解				
予習内容 復習内容	予習：次回の内容を演習中に示すので、その理論的基盤を調べておくこと。 復習：演習で行った内容と理論的基盤との関係や、用語などについてまとめておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回演習用のプリントを配布する。参考文献は適宜提示する。						
成績評価	授業ごとに提出するふりかえりシートの内容70%、レポート20%、演習への参加状況10%。欠席が3分の1(10回)を超えた場合は評価の対象外とします。						
実務経験	障害者支援施設で勤務経験有。現場での援助技術の役割について注視して演習をすすめます。						
その他 特記事項	出席して実際に動かなければ、援助技術は身につけません。主体的・積極的な参加を望みます。						